

法人特命企画官

- 中期計画の着実な推進や
20年後のトップ10入りを目指すための取組みの構築など
理事長の特命事項を担当する
- 平成25年年度 新設

8

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

「法人特命企画官」としての仕事

病院運営

■ 附属病院運営に関する企画立案

【例】「病床稼働率の低下とその後の対策について」「機能評価係数Ⅱについて」「病院の運営方針決定のために公立病院で必要になる考え方と会計」「手術中止症例から見えてきた手術室の現状」

■ 病院関係者への情報提供

【例】「一般病棟入院基本料の見直しについての影響」「DPC 対象病院・準備病院の現況について」「平成25年度機能評価係数Ⅲについて」「看護師特定認証について」

■ 診療報酬改定に係る中医協資料の読み込み作業と 病院運営協議会等でのプレゼン業務

【例】「平成24年度の診療報酬改定における中医協の審議状況等について」「平成24年度診療報酬改定の概要と詳細について」

■ 病院関係の学内委員会

●病院運営協議会 ●病院経営・運営会議 ●看護職員確保対策会議 対策本部
●新棟手術室検討委員会、中央手術棟建設委員会 ●医療情報システム運営委員会
●コーヒーショップ設置運営候補者選定審査委員会

10

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

病院運営

■ 附属病院の経営にも深く関わっている

□ 例えば、2年に1度の診療報酬改定時期には、中医協発表資料を常時精査し診療報酬改定における主要改定項目を独自にまとめあげ、病院経営・運営会議や病院運営協議会において頻回にプレゼンを行っている

↓ 奈良医大附属病院の運営に直接関わる非常に重要な示唆を行っている

■ 診療報酬改定等の社会の変化が大学病院にどのような影響を与えるかの調査研究を集中的に行い積極的に公表し、合わせてこれらの分析結果を当大学附属病院の運営に当てはめ、適切な対策の企画立案を行っている

□ 結果、奈良医大附属病院の収益では、着任当初の平成19年度は229億円だったものが、平成23年度は290億円、平成24年度は300億円と増加した

□ これは奈良医大附属病院運営の方針決定に際し、継続して支援を行ってきたことも寄与

↓ 奈良医大附属病院の運営に多大な貢献をしている

大学企画・運営

■ 大学での企画業務の大学移転・建替計画

【例】「臨床研究棟の建て替え計画案」「移転に伴う道路拡張についての調査」

■ 法人運営・財務に関する提案

【例】「中期目標の期間の最後の事業年度における会計処理について」「年度末の現金資産化計画 その項目と決定時期について」「第2期中期計画期間の大学財務目標について」

■ 大学関係者への情報提供

■ 大学関係の学内委員会

- 中長期計画推進委員会 ●中期計画企画運営・調整部会
- 中期計画推進委員会 施設整備部会 ●大学移転検討委員会ワーキング会議

11

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

今村関連業務について

中医協

(中央社会保険医療協議会)

「診療側」

「支払側」

医療者

保険者
労働組合
経団連代表

「公益委員」

第三者的立場
である学者等

審議会：厚生労働省の諮問機関

何をしている?
▷▷ 医療費の配分を決定
医療機関の収入となる診療報酬と、
保険から支払われる医薬品・医療材料の値段を決定
【2年1度診療報酬の改定】

配分に特化して議論しており、医療費の総額の決定には直接は関与しない

現在の立場は?
▷▷ 改定率※1に決定権限なし

医療費の総額を左右する改定率については意見を表明することができるのみで、決定権限なし

改定率は内閣の予算編成で決定
「与えられた医療財源と方向性の中で議論する場」

影響力は?
▷▷ 改定率に基づく決算事務施行に法改正必要な
中医協は「諮問=決定」会議

専権機能である配分機能はますます重要化
→「たかが中医協、されど中医協」

12

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

「中医協」の診療報酬改訂調査委員としての仕事

厚生労働省 みずほ情報総研

■ 平成22年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成22年度調査）

- 「外来管理加算の要件見直し及び地域医療貢献加算創設の影響調査」
- 「救急医療等の充実強化のための見直しの影響調査」

平成22年10月1日～平成23年3月31日

■ 平成22年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成23年度調査）

- 「病院勤務医の負担の軽減の状況調査」
- 「回復期リハビリテーションにおける質の評価、がん患者リハビリテーションの創設など、リハビリテーション見直しの影響調査」

平成23年6月1日～平成24年3月31日

「中医協」の診療報酬改訂調査委員としての仕事

中央社会保険医療協議会 診療報酬改定結果検証部会

■ 診療報酬改定による影響を調査 次回改定の基礎資料とする

【たとえば、「病院勤務医の負担の軽減の状況調査」の場合】

- 平成22年度診療報酬改定において、病院勤務医の負担軽減及び処遇の改善を目的とした項目が新設された
- これらの算定状況や勤務状況、処遇状況等の実態、勤務医負担軽減に係る対応策の具体的な内容とその効果について実態を把握するために調査を行う
- あわせて、薬剤師の病棟配置や病棟業務にかかる実態等について調査を行う
- 勤務医負担軽減等に資する評価の新設や引き上げ、要件の緩和に係る影響分析を行い、調査検討委員会での議論等を踏まえて報告書を作成する

■ 業務としては

6月頃 調査の概要や膨大な調査票案のチェックと意見出し（1回目会議の直前）

6月頃 1回目会議（さらに意見出し）

7月頃 調査票案 修正版のチェック

9月頃 結果表のチェックと意見出し（2回目会議の直前）

9月頃 2回目会議（さらに意見出し）

10月以降 結果表案 修正版のチェック

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

14

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

「中医協」の診療報酬改訂調査委員としての仕事

厚生労働省 三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社

■ 平成24年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成24年度調査）

- 「医療安全対策や患者サポート体制等に係る評価についての影響調査」
- 「救急医療機関と後方病床との一層の連携推進など、小児救急や精神科救急を含む救急医療の評価についての影響調査」

平成24年8月17日～平成25年3月29日

■ 平成24年度診療報酬改定結果検証に係る調査（平成25年度調査）

- 「病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善についての状況調査」
- 「維持期リハビリテーション及び廃用症候群に対する脳血管疾患等リハビリテーションなど疾患別リハビリテーションに関する実施状況調査」

平成25年5月27日～平成26年3月31日

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

15

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

「地域における保健師の保健活動に関する検討会」
～厚生労働省健康局 検討会委員(2012年10月～2013年3月)～

目的	H15以降の社会状況の変化及び制度の改正等を踏まえ、今後の地域における保健師の保健活動のあり方を検討
検討内容	① 最近の地域における保健活動に関する情報の収集 ② 今後の保健師の保健活動のあり方に関する論点整理及び方向性の検討
実施場所	厚生労働省 会議室

「地域における保健師の保健活動に関する指針」(平成25年4月19日発令)

保健師の保健活動の基本的な方向性

- ① 地域診断に基づくPDCAサイクルの実施
- ② 個別課題から地域課題への視点及び活動の展開
- ③ 預防的介入の重視
- ④ 地区活動に立脚した活動の強化
- ⑤ 地区担当制の推進
- ⑥ 地域特性に応じた健康なまちづくりの推進

「地区担当制の推進」「統括的な役割を担う保健師の配置」

16

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座
他大学等学外での講義
小川先生 大学院生 博士研究員他担当
奈良県病院協会看護専門学校 ①公衆衛生学概論 ②医療制度 ④国際保健 「生活環境と健康」 ⑤保健統計、地域保健 ⑥環境保健、疫学・健康指標 ⑦感染症1 ⑧感染症2 ⑨産業・学校・災害保健 ⑩成人保健・生活習慣病 ⑪老人・介護保健 ⑫母子保健 ⑬精神・難病保健 ⑭試験+解説
【担当講師】 講師：小川俊夫 博士研究員：佐野友美（関西空港検疫所）、田村光平（東京都葛飾区保健所） 大学院博士課程：前屋敦明江（奈良医大 看護学科公衆衛生看護学 助教） 大学院修士課程：加藤礼誠 教室研究生：西浦聰子（奈良医大付属病院）
大和高田市立看護専門学校 「公衆衛生学」 【担当講師】 教室研究生：西浦聰子 他 1名

18

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

他大学等学外での講義



今村先生

順天堂大学 「学校保健から食品保健へ」	H20～
杏林大学：客員教授 「医療管理学」	H19～
国公私立大学病院看護管理者研修 病院経営（千葉大学にて開催）	H20～
中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育セミナー 「衛生工学衛生管理者コース」「労働衛生に関する知識」	H20～
同志社女子大学 －医学概論－「保健・医療統計」	H23～
中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育セミナー 「衛生工学衛生管理者コース」「労働生理に関する知識」	H20～

赤羽先生

同志社女子大学 －医学概論－「保健・医療統計」	H23～
中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育セミナー 「衛生工学衛生管理者コース」「労働生理に関する知識」	H20～

小川先生

大阪市立大学看護学科 非常勤講師 「公衆衛生学」	①公衆衛生学序論 ②保健統計 ③医療制度 ④地域医療制度 ⑤母子保健 ⑥老人保健と介護保健 ⑦産業保健、学校保健 ⑧環境保健 ⑨食品保健 ⑩生活習慣病 ⑪国際保健 ⑫公衆衛生と感染症 ⑬医療資源 ⑭医療経済	H22～
名古屋大学大学院医学系 研究科：聘請講師 「ヤング・リーダーズ・プログラム」	●コロキアム講演：Lecture on Health System and Health Policy ●Case studies on Health System and Health Policy ●Health Economics I/II① ●Health Economics I/II②	H24～

17

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

一般社団法人 健康経済分析機構(EARTH)の設立



目的	保険者に対する健診・指導・レセプトのデータ活用を提案し、保険者の活動を支援することを目的とした法人を設立した
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般社団法人・健康経済分析機構(EARTH)を、奈良医大、国際医療福祉大、株式会社メディヴァを中心として設立 ● EARTHでは、本学を中心とした特定健康診査・特定保健指導に関する研究成果を活用し、保険者が必要とする現状分析と、分析結果の活用についてコンサルテーションを実施
実施場所	クライアントの健保組合事務所など

19

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

奈良県香芝市における特別健康診査・特定保健指導の効果分析



目的	香芝市において2008～11年度に実施された特定健康診査・特定保健指導から分析用データベースを構築し、健診・指導の健康状態に対する効果を分析する
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 香芝市における特定健康診査受診者を抽出し、健診・指導の経年データを名寄せし、分析用データベースを構築 ● 構築した分析用データベースを用いて、健診・指導の効果を、様々な角度から分析
実施場所	香芝市保健センター

21

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

骨の再生に関する研究

研究メンバー	研究費名	タイトル
赤羽 学（代表）	研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) フィジビリティスタディ(FS)ステージ 検索タイプ	骨再生医療に貢献する骨芽細胞シートの保存・輸送法の開発
赤羽 学（代表）	武田科学振興財団	細胞操作技術を用いた難治性偽関節の治療法開発
赤羽 学（代表）	鈴木謙三記念医科応用研究財団	再生医療に有用な培養細胞シートの簡便な輸送方法確立のための研究
赤羽 学（代表）	JA共済 交通事故医療研究助成	高エネルギー外傷後の粉碎骨折に対する再生医療技術を用いた治療法の開発
上羽智之（代表） 赤羽 学（分担）	厚生労働科研 再生医療実用化	難治性骨折（偽関節）に対するヒト骨髄細胞シートを用いた低侵襲治療手技の開発に関する研究
城戸 顕（代表） 赤羽 学（分担）	文部科学研究 基盤C	骨性支持評価を主軸とした骨転移を有するがん患者の整形外科サーベイランス
村田景一（代表） 赤羽 学（分担）	文部科学研究 基盤C	再生医療技術を応用した血管付き人工骨による四肢偽関節の治療に関する研究
重松英樹（代表） 赤羽 学（研究協力）	文部科学研究 若手B	脊椎損傷患者におけるロボットスチーツを用いた超急性期からのリハビリテーション
清水昌隆（代表） 赤羽 学（分担）	整形災害外科学研究助成財団	注入型骨移植法を用いた偽関節治療（骨芽細胞シート注入移植を応用した低侵襲手術手技の確立を目指して）
上羽智之（代表） 赤羽 学（分担）	JA共済 交通事故医療研究助成	高骨形成能型培養人工骨を用いた外傷後骨欠損に対する治療法の開発

22

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座
協会けんぽ東京・大阪支部における調査研究事業
目的
協会けんぽ東京・大阪支部において、2009～11年度の特定健康診査・特定保健指導・レセプトデータを用いた分析用データベースを構築し、健診・指導の健康状態や医療費に対する効果を分析する
実施方法
<ul style="list-style-type: none"> ● 協会けんぽ東京支部及び大阪支部における特定健康診査受診者を抽出し、健診・指導・レセプトの経年データを名寄せし、分析用データベースを構築 ● 構築した分析用データベースを用いて、健診・指導の効果を、様々な角度から分析
実施場所
全国健康保険協会（協会けんぽ）東京支部 大阪支部

20

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

研究メンバー	研究費名	タイトル
赤羽 学（代表）	研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) フィジビリティスタディ(FS)ステージ 検索タイプ	骨再生医療に貢献する骨芽細胞シートの保存・輸送法の開発
赤羽 学（代表）	武田科学振興財団	細胞操作技術を用いた難治性偽関節の治療法開発
赤羽 学（代表）	鈴木謙三記念医科応用研究財団	再生医療に有用な培養細胞シートの簡便な輸送方法確立のための研究
赤羽 学（代表）	JA共済 交通事故医療研究助成	高エネルギー外傷後の粉碎骨折に対する再生医療技術を用いた治療法の開発
上羽智之（代表） 赤羽 学（分担）	厚生労働科研 再生医療実用化	難治性骨折（偽関節）に対するヒト骨髄細胞シートを用いた低侵襲治療手技の開発に関する研究
城戸 顕（代表） 赤羽 学（分担）	文部科学研究 基盤C	骨性支持評価を主軸とした骨転移を有するがん患者の整形外科サーベイランス
村田景一（代表） 赤羽 学（分担）	文部科学研究 基盤C	再生医療技術を応用した血管付き人工骨による四肢偽関節の治療に関する研究
重松英樹（代表） 赤羽 学（研究協力）	文部科学研究 若手B	脊椎損傷患者におけるロボットスチーツを用いた超急性期からのリハビリテーション
清水昌隆（代表） 赤羽 学（分担）	整形災害外科学研究助成財団	注入型骨移植法を用いた偽関節治療（骨芽細胞シート注入移植を応用した低侵襲手術手技の確立を目指して）
上羽智之（代表） 赤羽 学（分担）	JA共済 交通事故医療研究助成	高骨形成能型培養人工骨を用いた外傷後骨欠損に対する治療法の開発

23

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ ウツタイングループ

参加メンバー

- 小川俊夫 ●今村知明
- 田邊晴山(救急救命東京研修所 教授)
- 小池創一(東京大学大学院医学系研究科 医療経営政策学講座 特任教授)
- 康永秀生(東京大学大学院 医学系研究科 公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学分野 教授)

採択研究課題

- 平成24年度 厚生労働科学研究費補助金
(健康安全・危機管理対策統合研究事業)
- 地域社会における自動体外式除細動器(AED)の役割と費用に関する研究 (H23-健危-一般-004)**
- ◆研究代表者: 小川俊夫
◆平成23年5月～平成25年3月 2年計画 本年度最終年
- 平成24年度 文部科学研究費補助金(基盤研究(C))
- 自動体外式除細動(AED)の経済分析に関する研究 (23590613)**
- ◆研究代表者: 小川俊夫
◆平成23年5月～平成26年3月 3年計画 本年度2年目

研究内容

都道府県におけるAED導入の関連費用を推計したうえで、その費用対効果を推計することを目的として実施する。さらに、地域の健康安全・危機管理対策の視点でAED導入の負担と効果について考察を実施し、危機管理の観点からAEDの適正台数についても提言を実施する。

- ◆ 抽出した都道府県におけるAED関連費用の推計
- ◆ 「ウツタイン統計データ」を用いた費用対効果分析手法の検討

24

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

25



消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ: 主な論文

1 The effects of sex on out-of-hospital cardiac arrest outcomes 院外心肺機能停止患者の予後の男女差について Manabu Akahane, Toshi Ogawa, Soichi Koike, Seizan Tanabe, Hiromasa Horiguchi, Tatsuhiko Mizoguchi, Hideo Yasunaga, and Tomoaki Imamura.	The American Journal of Medicine
2 Outcomes of chest compression-only CPR versus conventional CPR: A nationwide, population-based, observational study of bystander-witnessed out-of-hospital cardiopulmonary arrest cases 心臓みどり心肺蘇生の手順について Toshi Ogawa, Manabu Akahane, Soichi Koike, Seizan Tanabe, Tatsuhiko Mizoguchi and Tomoaki Imamura.	British Medical Journal
3 Immediate defibrillation or defibrillation after cardiopulmonary resuscitation CPRと除細動どちらが先か Soichi Koike, Seizan Tanabe, Toshi Ogawa, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Shinya Matsumoto, Tomoaki Imamura.	Prehospital Emergency Care
4 Effect of time and day of admission on 1-month survival and neurologically favourable 1-month survival in out-of-hospital cardiopulmonary arrest patients 病院搬送の曜日、時間と予後について Soichi Koike, Seizan Tanabe, Toshi Ogawa, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Shinya Matsumoto, Tomoaki Imamura.	Resuscitation
5 Collapse-to-emergency medical service cardiopulmonary resuscitation interval and outcomes of out-of-hospital cardiopulmonary arrest: a nationwide observational study 目撃から CPR開始までの時間について Soichi Koike, Toshi Ogawa, Seizan Tanabe, Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Tomoaki Imamura.	Critical Care
6 Collaborative effects of bystander-initiated cardiopulmonary resuscitation and prehospital advanced cardiac life support by physicians: survival of out-of-hospital cardiac arrest: a nationwide population-based observational study バイスタンダーによるCPRと医師による病院収容前の治療効果に関する研究 Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Seizan Tanabe, Manabu Akahane, Toshi Ogawa, Soichi Koike and Tomoaki Imamura.	Critical Care
7 Population density, call-response interval, and survival of out-of-hospital cardiac arrest 人口密度と蘇生率について Hideo Yasunaga, Hiroaki Miyata, Hiromasa Horiguchi, Seizan Tanabe, Manabu Akahane, Toshi Ogawa, Soichi Koike and Tomoaki Imamura.	International Journal of Health Geographics

26

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

27

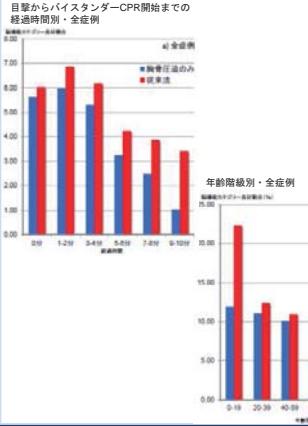


消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ



胸骨圧迫のみと従来法の予後の比較

目次からハイバインダーCPR開始までの経過時間別・全症例



院外発生の心肺機能停止患者に対する
自動体外式除細動器のその後の男女差について
市民及び救急隊AEDの発生症例の蘇生能力マトリクス好合割合は、
どちらも男性のほうが女性に比べて高く、有効差が見られた。(調整前)
蘇生能力マトリクス好合割合



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

25



日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究 生協調査

参加メンバー

- 今村知明 ●赤羽学 ●小川俊夫
- 杉浦弘明
- 佐野友美 (関西空港検疫所)

- 城島哲子 (奈良医大看護科公衆衛生看護学 教授)
- 坂東治美 (滋賀医科大学看護学科 公衆衛生看護学講座 講師)
- 岡部信彦 (川崎市衛生研究所 所長)
- 鬼武一夫 (日本生活協同組合連合会)

研究内容

インターネットを用いて毎日住民のアンケート健康調査(WDQH)を実施し、個人の健康状態を収集。(対象地域生協会員のうちネット注文をしている方とその家族が調査対象)

- ◆アレルギー症状の日々の変化と黄砂量との検討
 - 日々変化するアレルギー症状の推移をとらえ、各症状と黄砂との関連性を調査
- ◆花粉症流行開始日の同定
 - 日々変化するアレルギー症状の推移をとらえ、花粉飛散状況との関係を調査
- ◆東日本大震災に伴う不眠症発症リスクの検討(前向き調査)
 - 東京と大阪の東日本大震災による不眠発症の検討を実施

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

27



日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究

研究内容

インターネットを用いて毎日住民のアンケート健康調査(WDQH)を実施し、個人の健康状態を収集。(対象地域生協会員のうちネット注文をしている方とその家族が調査対象)

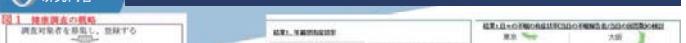
- ◆アレルギー症状の日々の変化と黄砂量との検討
 - 日々変化するアレルギー症状の推移をとらえ、各症状と黄砂との関連性を調査
- ◆花粉症流行開始日の同定
 - 日々変化するアレルギー症状の推移をとらえ、花粉飛散状況との関係を調査
- ◆東日本大震災に伴う不眠症発症リスクの検討(前向き調査)
 - 東京と大阪の東日本大震災による不眠発症の検討を実施

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

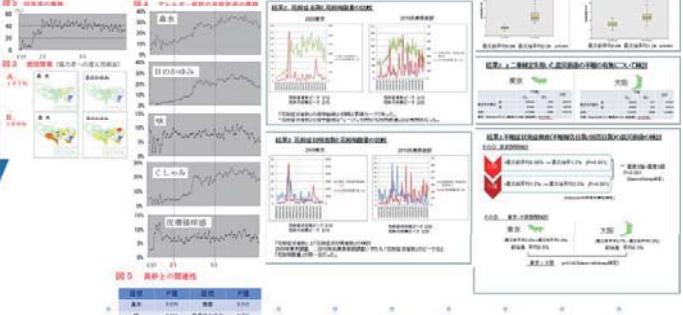
奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究

研究内容



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究

研究内容

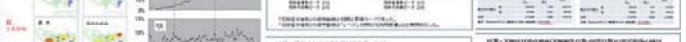


奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

食品防衛班

採択研究課題

- 平成24年度 厚生労働科学研究費補助金
(食品の安全確保推進研究事業)
- 食品防衛の具体的な対策の確立と実行検証に関する研究 (H24-食品-一般-001)**
- ◆研究代表者: 今村知明
◆平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度1年目

研究内容



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29



食品防衛のガイドライン作成と食品の市販後調査(PMM)

研究内容

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

28

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

29





症候群サーベイランスおよび市販後調査(PMM)

- 2007年度 第1回目出雲サーベイ (378世帯)
 - 毎日のデータ収集システムの開発と実証実験
 - 環境因子（大気汚染（SOX, NOX）、花粉、黄砂）との掛け合わせ
- 2008年度 北海道洞爺湖サミット (472世帯)
 - 每日のデータ収集システムの実用
- 2008年度 第2回目出雲サーベイ
 - 節約型システム（3日分ずつ一括アンケート）
- 2008年度 COOPとうきょう (462世帯)
 - 日本生活協同組合との協同研究
 - 日々の17症状の調査項目
 - 最終アンケートでの健康意識や食洗機の使用状況の調査等
- 2009年度 COOPとうきょう (139世帯) COOPこうべ (814世帯)
 - 市販後調査 (PMM : Post Marketing Monitoring)
- 2010年度 パルシステム東京 (1002世帯)
 - 大阪いすみ市民生活（554世帯）
 - 市販後調査 (PMM : Post Marketing Monitoring)
- 2011年度 パルシステム東京 (1000世帯)
 - COOPこうべ (1000世帯)
 - 市販後調査 (PMM : Post Marketing Monitoring)
- 2012年度 パルシステム東京 (1000世帯)
 - COOPこうべ (1000世帯)
 - 市販後調査 (PMM : Post Marketing Monitoring)

[2013年度の調査中です]

パルシステム東京(1000世帯)

COOPこうべ (1000世帯)

市販後調査 (PMM : Post Marketing Monitoring) 継続中

調査は5月中旬から約4ヶ月間、毎日の健康状態についてインターネットアンケートに回答

32

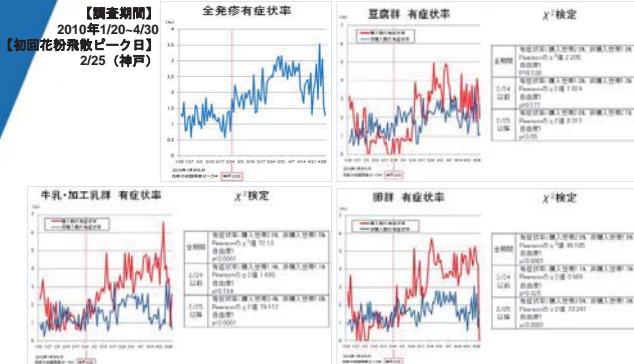
奈良県立医科大学 健康政策医学講座



市販食品が発疹の有症状率に影響を与える可能性

[前屋敷明江]

•3食品(豆腐、牛乳・加工乳、卵)の購入と発疹の発生及び花粉飛散状況との関連性の検討



33

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



健康問題にかかるリスクコミュニケーション研究

リスク班

採択研究課題

平成24年度厚生労働科学研究費補助金(食品安全確保推進事業)

新開発バイオテクノロジー応用食品の安全性確保並びに国民漫容に関する研究(H24-食品一般-005)

◆研究代表者: 手島玲子 (国立医薬品食品衛生研究所 代謝生化学部)

◆研究分担者: 今村知明

◆平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度1年目

平成24年度文部科学省研究費補助金(基盤研究(B))

健康被害事件での社会反応の定量化と過剰反応抑制の為のリスクコミュニケーション(23310112)

◆研究代表者: 今村知明

◆連携研究者: 松尾真紀子(東京大学公共政策大学院)

◆平成23年4月～平成26年3月 3年計画 本年度2年目

研究内容

「新開発バイオテクノロジー

応用食品」「食品事件」

「健康被害事件」のリスクコミュニケーション手法の開発～確立へ

- ◆ メディア動向の定量化・定性的把握
- ◆ GM動物に係るリスクコミュニケーション手法の開発と確認
- ◆ GM食品と他のリスクに関する問題を抱える食品との比較調査
- ◆ 専門家と一般消費者の意識のギャップに関する調査
- ◆ 海外事例調査:米国・カナダ・豪州・アルゼンチン
- ◆ 食品や健康被害リスクの社会反応の分析と大規模化の促進要因抽出
- ◆ 社会的感受性のモニタリング手法の開発とモニタリング等の試行
- ◆ 社会的過剰反応を最小限に抑えるためのリスクコミュニケーション手法の確立

34

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



健康問題にかかるリスクコミュニケーション研究

研究内容

採択研究課題

平成24年度厚生労働科学研究費補助金(食品安全確保推進事業)

新開発バイオテクノロジー応用食品の安全性確保並びに国民漫容に関する研究(H24-食品一般-005)

◆研究代表者: 手島玲子 (国立医薬品食品衛生研究所 代謝生化学部)

◆研究分担者: 今村知明

◆平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度1年目

平成24年度文部科学省研究費補助金(基盤研究(B))

健康被害事件での社会反応の定量化と過剰反応抑制の為のリスクコミュニケーション(23310112)

◆研究代表者: 今村知明

◆連携研究者: 松尾真紀子(東京大学公共政策大学院)

◆平成23年4月～平成26年3月 3年計画 本年度2年目

35

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



健康政策医学

カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査

カネミ班

参加メンバー

●今村知明 ●赤羽学

●松本伸哉(テラデータ、当講座専修生)

●神奈川芳行(東京大学医学部付属病院企画情報運営部、JR東日本)

●古江増隆(九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野・研究代表者)

採択研究課題

平成24年度厚生労働科学研究費補助金(食品安全確保推進事業)

食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究(H24-食品-指定-014)

◆研究代表者: 古江増隆(九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野)

◆研究分担者: 赤羽 学

◆平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度1年目

研究内容

油症患者と非油症患者における健康実態の比較検討と

血中ダイオキシン濃度の半減期に関する研究

- ◆ 過年度までに非油症患者に対して行ってきた健康実態調査結果を、油症患者の健康実態と詳細に比較するために多変量解析等を用いた検討を行い、油症患者の健康実態を明らかにする
- ◆ 血中ダイオキシン濃度の半減期の推測が可能であるかの検討
 - > 血中ダイオキシン類の半減期を詳細に推測するためには、各患者の体重や体脂肪率等の変化を考慮する必要があることが判明
 - > 長期の子供のように年々体重が増加する場合には、その変化は半減期と強く結びついて現れるので推測は比較的容易であるが、成人の体重の増減は各個人によって異なる
 - > 体重以外にも血中脂質濃度など調査期間内の計測値が増減する項目がある

36

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査

カネミ班

参加メンバー

●今村知明 ●赤羽学

●松本伸哉(テラデータ、当講座専修生)

●神奈川芳行(東京大学医学部付属病院企画情報運営部、JR東日本)

●古江増隆(九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野・研究代表者)

採択研究課題

平成24年度厚生労働科学研究費補助金(食品安全確保推進事業)

食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究(H24-食品-指定-014)

◆研究代表者: 古江増隆(九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野)

◆研究分担者: 赤羽 学

◆平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度1年目

研究内容

油症患者と非油症患者における健康実態の比較検討と

血中ダイオキシン濃度の半減期に関する研究

- ◆ 過年度までに非油症患者に対して行ってきた健康実態調査結果を、油症患者の健康実態と詳細に比較するために多変量解析等を用いた検討を行い、油症患者の健康実態を明らかにする
- ◆ 血中ダイオキシン濃度の半減期の推測が可能であるかの検討
 - > 血中ダイオキシン類の半減期を詳細に推測するためには、各患者の体重や体脂肪率等の変化を考慮する必要があることが判明
 - > 長期の子供のように年々体重が増加する場合には、その変化は半減期と強く結びついて現れるので推測は比較的容易であるが、成人の体重の増減は各個人によって異なる
 - > 体重以外にも血中脂質濃度など調査期間内の計測値が増減する項目がある

36

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査

カネミ班

研究内容

1 A technique for identifying three diagnostic findings using association analysis
Tomooaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Medical and Biological Engineering and Computing

2 Relationship between clinical features and blood levels of pentachlorodibenzofuran in patients with Yusho
Tomooaki Imamura, Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Bunichi Tajima, Takeshi Uenotsu, Satoko Shibata, Environmental Toxicology

3 Association of clinical findings in Yusho patients with serum concentrations of polychlorinated biphenyls, polychlorinated quarterphenyls and 2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran over more than 30 years after the poisoning event
Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Soichi Koike, Bunichi Tajima, Noriko Fukiwake, Satoko Shibata, Environmental Health

4 Variation in Half-life of Penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) Blood Level among Yusho Patients
Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Takesumi Yoshimura, Chikage Mitoma, Medical and Biological Engineering and Computing

5 Twenty-year changes of penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) level and symptoms in Yusho patients, using association analysis
Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Manabu Akahane, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, BMC Research Notes

6 Cutaneous symptoms such as acneform eruption and pigmentation are closely associated with blood levels of 2,3,4,7,8-penta-chlorodibenzofuran in Yusho patients, using data mining analysis
Tomooaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, BMC Research Notes

7 ESTIMATION OF PENTA-CHLORODIBENZOFURAN (PCDF) HALF LIFE IN YUSHO PATIENTS
Manabu Akahane, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Chikage Mitoma, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Takesumi Yoshimura, Masataka Furue, Tomooaki Imamura, Organohalogen Compounds

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査: 主な論文

カネミ班

1 A technique for identifying three diagnostic findings using association analysis
Tomooaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Medical and Biological Engineering and Computing

2 Relationship between clinical features and blood levels of pentachlorodibenzofuran in patients with Yusho
Tomooaki Imamura, Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Bunichi Tajima, Takeshi Uenotsu, Satoko Shibata, Environmental Toxicology

3 Association of clinical findings in Yusho patients with serum concentrations of polychlorinated biphenyls, polychlorinated quarterphenyls and 2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran over more than 30 years after the poisoning event
Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Soichi Koike, Bunichi Tajima, Noriko Fukiwake, Satoko Shibata, Environmental Health

4 Variation in Half-life of Penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) Blood Level among Yusho Patients
Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Takesumi Yoshimura, Chikage Mitoma, Medical and Biological Engineering and Computing

5 Twenty-year changes of penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) level and symptoms in Yusho patients, using association analysis
Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Manabu Akahane, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, BMC Research Notes

6 Cutaneous symptoms such as acneform eruption and pigmentation are closely associated with blood levels of 2,3,4,7,8-penta-chlorodibenzofuran in Yusho patients, using data mining analysis
Tomooaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, BMC Research Notes

7 ESTIMATION OF PENTA-CHLORODIBENZOFURAN (PCDF) HALF LIFE IN YUSHO PATIENTS
Manabu Akahane, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Chikage Mitoma, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Takesumi Yoshimura, Masataka Furue, Tomooaki Imamura, Organohalogen Compounds

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査: 主な論文

カネミ班

1 A technique for identifying three diagnostic findings using association analysis
Tomooaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Medical and Biological Engineering and Computing

2 Relationship between clinical features and blood levels of pentachlorodibenzofuran in patients with Yusho
Tomooaki Imamura, Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Bunichi Tajima, Takeshi Uenotsu, Satoko Shibata, Environmental Toxicology

3 Association of clinical findings in Yusho patients with serum concentrations of polychlorinated biphenyls, polychlorinated quarterphenyls and 2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran over more than 30 years after the poisoning event
Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Soichi Koike, Bunichi Tajima, Noriko Fukiwake, Satoko Shibata, Environmental Health

4 Variation in Half-life of Penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) Blood Level among Yusho Patients
Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Takesumi Yoshimura, Chikage Mitoma, Medical and Biological Engineering and Computing

5 Twenty-year changes of penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) level and symptoms in Yusho patients, using association analysis
Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Manabu Akahane, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, BMC Research Notes

6 Cutaneous symptoms such as acneform eruption and pigmentation are closely associated with blood levels of 2,3,4,7,8-penta-chlorodibenzofuran in Yusho patients, using data mining analysis
Tomooaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, BMC Research Notes

7 ESTIMATION OF PENTA-CHLORODIBENZOFURAN (PCDF) HALF LIFE IN YUSHO PATIENTS
Manabu Akahane, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Chikage Mitoma, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Takesumi Yoshimura, Masataka Furue, Tomooaki Imamura, Organohalogen Compounds

奈良県立医科大学 健康政策医学講座



国際疾病分類「ICD11」の作成に向けての調査研究

ICD班

参加メンバー

●今村知明(研究代表者)

●小川俊夫(研究分担者)

●菅野健太郎(自治医科大学 消化器内科)

●落合和徳(東京慈恵会医科大学付属病院 産婦人科)

●中谷純(東北大學 東北メディカルガバナンス機構 医療情報部)

研究内容

● 医療における情報活用を行う上で適切な疾患分類をとりまとめることを目的

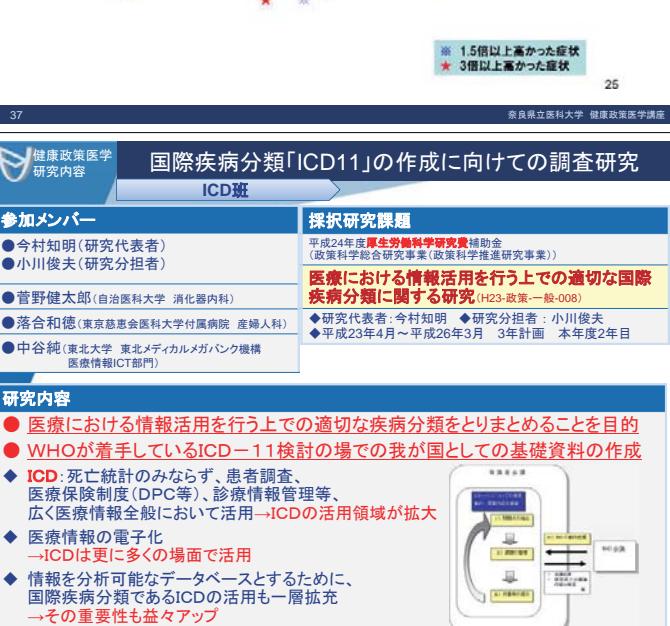
● WHOが着手しているICD-11検討の場での我が国としての基礎資料の作成

◆ ICD: 死亡統計のみならず、患者調査、医療保険制度(DPO等)、診療情報管理等、広く医療情報全般において活用→ICDの活用領域が拡大

◆ 医療情報の電子化→ICDは更に多くの場面で活用

◆ 情報を分析可能なデータベースとするために、国際疾病分類であるICDの活用も一層充拡

→その重要性も益々アップ



39

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

エイズ医療の経済性についての調査研究
エイズ班

参加メンバー

- 小川俊夫(研究分担者)
- 伊藤俊広(国立病院機構
仙台医療センター)
他 16名

研究内容

●継続的で格差のないHIV医療体制の構築を目指す

- HIV診療体制整備の構築支援の一環として、
医療経済を含めたHIV医療のあり方と費用対効果に関する研究
 - HIV感染症に係る医療費の医療経済学的分析と費用対効果
- 医療経済の面からも理想的な医療を追及していくことはHIV医療においても重要である
- たとえばHIV感染症の早期治療が費用対効果におよぼす影響について検討することによりHIV感染症対策に変化が生じる可能性がある

40

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

病院の経営改善や政策医療に関する研究

■ 5対1看護導入に伴う看護師数の需給バランスの推計

目的: 5対1看護導入に必要な看護師増員数を推計し、導入の実現可能性を考察する

結果: 5対1看護の導入を大規模病院に限定した場合、実質的な看護師過不足数は数千人と推計され、5対1看護の導入が可能と示唆された

■ 病院経営からみたリハビリテーション部門拡充に関する一考察

目的: リハビリテーション部門の体制強化に向けた収支の試算を行い、病院経営に及ぼす影響について考察を実施する

結果: リハビリテーション部門の人員の増員による効果的な運営が、在院日数の短縮等、収益性の向上に貢献すると示唆された

42

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

国際食品規格基準作成委員会(コーデックス委員会)に向けた調査研究

コーデックス班

参加メンバー

- 今村知明(研究分担者)
- 里村一成(京都大学医学部
公衆衛生学准教授)

研究内容

目的: 食品の国際規格策定プロセスへの効果的な参画を可能とするメカニズムを構築する。

方法:

- 過去の議論の内容・各國政府の対応・最新の見解の収集・分析
- 収集・蓄積した関連情報のデータベース化・有効利用に関する検討
- 国内外マネーランダードとの情報共有のあり方にに関する検討

期待される効果:
国際規格への日本(政府・企業・消費者等)の積極的な参画・主張の反映を可能とし、日本国内の食品安全性の向上に貢献する。

- 主として、食品に関する国際規格を策定しているコーデックス委員会(Codex Alimentarius Commission)について、各部会における主要な議題に関する過去から現在に至る議論の推移、諸外国のポジション、日本政府の対応に関する情報を収集・分析し、今後、日本政府の主張を効果的に議論に反映させるためのアプローチについて研究し、実践的な提言を行う。また、コーデックス活動の一般へ情報提供のあり方について研究を行う。

41

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

病院の経営改善や政策医療に関する研究

■ 公立病院の財務改善に関する一考察:

地方交付税と会計基準の公立病院経営に与える影響

目的: 公立病院に措置された地方交付税が適切に繰入れられ、公立病院独自の会計基準を導入した場合の財政について考察する

結果: モデル病院を用いて検討することにより、公立病院の財政は改善される可能性が示唆された

■ 公的病院の医師確保に向けた一考察:

医師事務作業補助者の雇用が病院経営に与える影響

目的: 医師事務作業補助者の雇用に伴う病院の収支を試算し、影響を考察する

結果: 医師事務作業補助者の雇用は病院の収益を圧迫するが、医師の事務作業を軽減し、医師の残業手当の削減及び雇用条件の向上に繋がる可能性がある

43

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

大学経営再建・病院経営支援

■ 大学経営再建

- 杏林大学:ここ5年の決算の改善は劇的

■ 県立病院、市民病院の経営支援

- | | |
|----------|---------|
| ●金沢市民病院 | ●青森県立病院 |
| ●佐世保市民病院 | ●富山市民病院 |
| ●国保中央病院 | |

■ 国立病院への経営支援

- 国立国際医療センター 国府台病院
- 国立長寿医療センター 外部評価委員
- 厚生中央病院(全国土木建築国民健康保険組合)

44

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

関連委員会・審議会・会議:国・県・市町村関係

今村知明

省庁・機関	業務内容	役職	在職期間
国 省庁関係			
1 厚生労働省 医政医政局	薬事・食品衛生審議会 食中毒専門会	臨時委員	平成21年 平成27年
2 厚生労働省 健康局	エイズ動向委員会	委員	平成21年 平成25年
3 厚生労働省	平成24年度医療報酬改定範囲検証会に係る調査 「厚生労働省の負担軽減及び危機の改善についての状況調査」	委員	平成25年 平成26年
4 厚生労働省	平成24年度医療報酬改定範囲検証会に係る調査 「維持率引り下りリテーション及び医療扶助費に対する血管疾患等「リビングショーン」など医療費リバーチューリングに關する家族状況調査」	委員	平成25年 平成26年
5 文部科学省 高等教育局	大学における医療人養成推進等委託事業選定委員会	委員	平成25年 平成26年
6 厚生労働省 医政局	PDGサイクルを通じた医療計画の実効性の向上のための研究会	委員	平成25年

法人・組織関係

7 日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会 地方試験委員会	委員	平成23年 平成26年
8 日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会評議会 地域別	評議員	平成23年 平成26年
9 (社)全国自治体病院協議会	診療報酬対策委員会	アドバイザー	平成20年 繼続中
10 全国土木建築国民健康保険組合	厚生中央病院経営改善討議会	講師	平成21年 繼続中

県議会

11 奈良県	奈良県建築審査会	委員	平成23年 平成27年
12 奈良県	奈良県健長寿共同事業実行委員会議員会議	委員	平成23年 平成26年
13 奈良県福祉部健康安全局地域医療連携課	奈良県食品安全・安心懇親会	委員及び委員長	平成20年 平成26年
14 奈良県東病院評議会	奈良県長寿医療研究会懇親会	委員・座長	平成20年 平成26年
15 奈良県国民中央病院改組委員会	奈良県国民中央病院改組評議会委員会	委員	平成22年 任期なし

市町村関係

16 植原市	植原市建築審査会	委員	平成19年 平成27年
17 富山市	富山市病院経営改善委員会	副委員長	平成20年 繼続中
18 東京医療保健大学	東京医療保健大学スクリー委員会	委員	平成25年 平成26年

45

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

関連委員会・審議会・会議:
学内関係、その他講座メンバー関係

赤羽 単

No	省庁・機関	職務内容	役職	在職期間開始	在職期間終了
1	World journal of stem cells(WJSC)	World journal of stem cells editorial board member	editorial board member	平成23年4月25日	
2	日本法人生本監修外科学 Journal of Orthopaedic Science(JOS)	日本法人生本監修外科学 Journal of Orthopaedic Science(JOS) editorial board member	editorial board member	平成23年	任期なし

今村知明

省庁・機関	職務内容	役職	在職期間
18 奈良医大内	看護職員確保対策会議		平成20年 任期なし
19 奈良医大内	大学医学研究科修士課程運営委員会	委員	平成20年 平成26年
20 奈良医大内	学報編集委員会	編集委員長	平成20年 平成26年
21 奈良医大内	中期計画推進委員会 施設整備部会	委員	平成22年 繼続中
22 奈良医大内	利益相反管理委員会	委員	平成21年 平成27年
23 奈良医大内	利益相反に係る相談室	委員	平成21年 平成27年
24 奈良医大内	大学医学研究科博士課程運営委員会	委員	平成22年 平成26年
25 奈良医大内	医員対話委員会	委員	平成21年 繼続中
26 奈良医大内	中期計画推進委員会 医学生医学入試試験部会	委員	平成23年 繼続中
27 奈良医大内	産官学連携センター運営委員会	委員	平成23年 平成26年
28 奈良医大内	中期計画推進委員会 企画運営・調整部会	委員	平成23年 繼続中
29 奈良医大内	長短期計画推進委員会	委員	平成23年 平成27年
30 奈良医大内	医療情報システム運営委員会	委員	平成24年 平成26年
31 奈良医大内	法人特命企画室	法人特命企画室	平成25年
32 奈良医大内	女性研究者支援センター運営委員会	委員	平成23年 平成27年
33 奈良医大内	民衆の健康増進支援体制検討委員会	委員	平成25年
34 奈良医大内	医療の評価価値委員会	委員	平成25年
35 奈良医大内	大学移転候補委員会ワーキングの会議	委員	平成25年 平成26年

46

E医学講座